

平成29年度神奈川県教職員人材確保・育成推進協議会  
第1回 育成部会（概要）

日時 平成29年5月15日（木） 9:15～10:45  
場所 かながわ県民センター1501会議室  
協議 神奈川県教職員の資質向上に関する指標（部会案）について

「わかりやすい授業」が何を意味しているか、明確に定義する必要がある。

「わかりやすい授業」は、教師が一方的に伝え、それがわかりやすいかどうかだけのことと捉えられてしまう危険性がある。子どもたちに身に付けさせたい力という視点で、構成していくべきだ。指導法と授業を連動させながら作っていくべきと思う。

教師主導の授業とイメージされないよう、授業改善の視点を持った表現がよい。

「わかりやすい授業」とは、学習指導要領の内容について、子どもがわかったと実感できる授業だと考える。校内研修でも学習指導要領を踏まえるのが当然であり、学習指導要領についての記載は、とてもよいと感じた。学力の3要素の視点から考えることも重要である。

「指導法」の言葉を「授業」に関係する箇所に入れた方がよい。今検討されているコアカリキュラムも踏まえ、検討する必要がある。

「学んでいる」という表記は、状態を表す表現なので、適切でない。態度を表す表現ではどうか。

「理解している」「身に付けている」等の表現がよい。

大学生には、1時間の授業計画を立てられる程度は求めたい。

教員養成段階で弱いのは学習評価についてだ。併せて、学校間接続についてもどこかに入れられるとよい。

昔から、指導と評価の一体化が言われている。大学での教員養成でも、学習評価についてどれだけ教えられているかという点で弱い。学習評価については、研修に入れる必要があるし、どこかに加えた方がよい。

幼・小・中・高のつながりについても触れてあるといい。

教員研修は、校内研修がベースとなるが、それだけでなく、全県での研修、民間の研究会や学会に参加する気概を持たせ、奨励することも必要だ。

校内研修については、教員は、長期休業期間以外は校外研修に行くのも難しい中、チームとして学校の教育力を上げるために進められているが、取組みは学校により差があるので、教育委員会の施策として進める必要がある。

民間研究会や校内研修についての意見もあったが、授業力の基本は校内研修だ。その充実方法として外部研修とのリンクも重要だが、どのように書くか難しい。

民間の研究会等を必須の研修として位置付けるのは難しい。各自の力を高める中では、当然行われてよいものであり、その中で資質能力の高い教員が育つのは当然である。

指標の実効性をどのように持たせるか検討する必要がある。指標が絵に描いた餅にならないよう、有効に活用してもらう方法を考えなければならない。

この指標は全体像がわかりやすいが、教員自身が具体的なスキルとして何を身に付ければよいのかわかりにくい。具体化したチェックリストをつけるなど、工夫が必要だ。

「変化に対応し、学び続ける向上心」は子どもたちの可能性を引き出すべき教員にとって、最も重要なものだ。教員の意欲に対し、適切に寄り添って助言できるようにすることが、制度的にも重要だ。